

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 協議会名

令和4年度東京都立松が谷高等学校学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

副校長、経営企画室長、主幹教諭2名 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、分掌主任教諭4名 計7名

(4) 協議委員の構成

近隣中学校長2名、学校医、近隣地域代表、同窓会長、
PTA会長、PTA副会長 計7名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

第1回 令和4年6月9日(木) 午後3時30分～午後4時30分

出席者：内部委員5名、協議委員5名

内容：協議委員委嘱、評価委員の選出、
令和3年度学校経営報告、令和4年度学校経営計画について
本校の現状と課題(各分掌)、その他意見交換

第2回 令和4年10月14日(金) 午後3時30分～午後4時30分

出席者：内部委員7名、協議委員6名

内容：本校の現状と課題(各分掌)、新型コロナウイルス感染症対策について
学校評価アンケート案の検討、その他意見交換

第3回 令和5年2月10日(金) 資料発送

大雪警報発令のため、書面開催とした。

内容：学校評価アンケートの報告、本校の現状と課題(各分掌)

(2) 評価委員会

第1回 令和4年10月14日(金) 午後3時00分～午後3時30分

出席者：内部委員1名、評価委員2名

内容：今年度の学校評価アンケート案の検討(全体構成、各設問の検討等)、
アンケート配布・回収方法の検討

第2回 令和5年2月6日(月)

書面開催としたため、企画調整会議による検討で代替とした。

内容：学校評価アンケートの集計結果および分析の報告(原案)の提案、
評価委員による分析内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 評価の観点

「学校への理解」「学校生活満足」「学習の意欲」「学校の実践」の観点で評価する。

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

・実施時期：令和4年11月～12月

・対象、規模	生徒	対象：925人	回収率：82.6%
	保護者	対象：925人	回収率：27.3%
	教職員	対象：60人	回収率：58.1%
	近隣地域住民	対象：50人	回収率：88.0%
	近隣中学教員	対象：50人	回収率：90.0%

(3) 主な評価項目

学校生活満足、学校の印象、学校の特色認知、英語教育充実、学校施設満足、中高・地域連携達成、授業満足、講習・補習の充実、習熟度別・少人数授業の効果、家庭学習習慣定着、教育相談の効果、教育相談対応の満足、進路指導満足、三者面談の効果、家庭への情報伝達達成、教育活動PR達成、部活動満足、生活指導満足、美化活動達成、規範意識定着、防災教育の効果、読書推進達成、体罰防止指導達成、いじめ防止対策達成、学校経営計画達成、働き方改革認知、在校時間短縮達成、新型コロナ対応 等

(4) 結果の概要

- ・学校満足度、英語教育充実度、授業満足度、進路指導満足度、部活動満足度は、教職員・生徒・保護者とも、おおむね変化がなかった。
- ・補習・講習の充実度は、教職員の肯定的評価が増加した。
- ・家庭学習習慣定着度は、教職員の肯定的評価が減少した。
- ・生活指導満足度は、教職員・生徒・保護者ともおおむね変化がなかったが、規範意識定着度は、教職員の肯定的評価が減少した。

(5) 結果の分析・考察

- ・外部からの印象は肯定的な意見が多いが、校則・生活指導と規範意識について中学教員の評価はあまり高くない。
学校の特色・教育活動が、外部には分かりにくい状況が指摘されている。コロナ禍により行事が無くなった影響も大きいと思われる。
- ・「松が谷高校は勉強と部活動を両立している学校だ」というのは、学校として目指したい方向性であるが、中学教員の評価は一昨年度より上がっている。
英語教育の充実については、それなりに評価されているようである。特に中学教員の評価が高い。
- ・授業の満足度は、教職員が「工夫や改善に取り組んでいる」と考えているよりも、生徒・保護者の評価は低い。
「習熟度別や少人数制の授業は学力向上に効果があるか」「講習・補習を実施したり充実させたりしている」については、教職員・生徒の評価に比べ、保護者の評価が低い。
家庭学習については、「全くしていない」という回答は減っているが、家庭学習の定着が大きな課題と考えられる。
学習面への強化という点においては、家庭学習の定着と、授業・講習等への積極的な参加を促すという点と、習熟度別・少人数制授業やアクティブラーニングを含め授業への工夫・改善を図るといふ、生徒・教職員双方の努力が必要だと考えられる。
- ・進路指導については、教職員・生徒の評価に比べ、保護者の評価は低い。
総合的な学習や探求の時間などを活用し、1年時から積極的に進路について考える機会を充実させ、具体的な活動に結び付けていくための働きかけをしていくことが必要だと考える。
また、三者面談など、保護者・生徒との対話の機会を充実させていくことで、進路指導の充実にもつながると考えられる。
- ・部活動への満足度は、コロナ前にくらべると低めな傾向が続いている。
- ・校則・生活指導については、頭髪・服装指導に絞って質問をしたが、地域の評価が高かったのに対し、中学教員の評価はあまり高くない。
規範意識については、教職員の評価が下がっており、中学教員の評価もあまり高くない。
頭髪・服装指導に限らず、基本的な生活習慣・規範意識を高め、保護者と連携をとりながら生活指導をしていくことが必要だと考える。
- ・教育相談対応については、教職員が「対応に努めている」「スクールカウンセラーとの連携は効果がある」と考えているのに対し、生徒・保護者の評価が低い傾向は変わらない。
教職員全体の相談力を上げていくことが必要だと考えられる。
- ・図書館利用と読書推進については、教職員で肯定的な評価が上がった。

英語の多読授業や読書の宿題、ビブリオバトルなどで利用されることが多いようである。また、自習室や進路活動での利用も、図書館利用増加の要因と考えられる。

- ・体罰に関しては、生徒・保護者・教職員ともに9割以上が肯定的な回答で、おおむね変化はない。
 - ・いじめがないか（見聞きを含め）に関しては、生徒・保護者・教職員ともに9割以上が肯定的な回答で、おおむね変化はない。
- 今後ともいじめに関するアンケートの実施も含め、日常から生徒の様子を注意深く見て、対話をし、対応に努める必要があると考える。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・感染症対策をする中で、実施方法を工夫しながら学校行事や部活動を行うことができたことは評価を得られた。
- ・昨年度に引き続き、オンライン授業や学習支援ツール Teams 等を活用し、できる限り学習の機会を確保したことは評価を得られた。
- ・HPの充実をはじめとして、広報活動の充実が求められていることが分かった。
- ・地域（小学校・中学校・地域住民）とのさらなる連携が求められていることが分かった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学びの保障をするために、ICTを活用した授業や学習支援ツール Teams の活用などの取り組みの充実が必要である。
- ・感染症対策をする中でも、行事や部活動等の特別活動の機会を保障すること、保護者や地域への情報発信を充実させることが重要である。
- ・家庭学習の習慣の定着が十分でないことが課題である。家庭学習の習慣化はもちろんのこと、自学自習体制への支援および講習等の充実に関する取り組みが必要である。
- ・進路指導においては、多様な進路に対応できるようきめ細やかな指導が必要である。探究などを通じて、1年時から積極的に進路について考える機会を充実させ、進路に対するイメージを持ち具体的な活動につなげていくことが必要である。
- ・保護者をはじめ、地域住民、近隣中学校からは、学校行事および地域活動への期待が高いことから、さらなる地域連携、中学校連携を図る必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・ランドデザインを基に、英語教育研究推進校、海外学校間交流推進校、スポーツ特別推進部指定校である特色を生かし、教育活動の充実を推進し、学校の特色化を図る。
- ・地域行事への参加、小・中学校との合同活動、ボランティア活動など、地域に貢献できる活動を推進する。
- ・時差登校および全校集会の緩和を目指す。
- ・総務情報部の新設に伴う、業務分担、体制の見直しをする。

(2) 学習活動

- ・オンライン授業と学習支援ツール Teams 等を活用した学習を定着させる。
- ・「確かな学力」を身に付けることができるよう、授業の工夫・改善を図る。
- ・新教育課程および観点別評価2年目の経過観察を行う。
- ・各教科、学年、家庭で連携し、家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、自学自習体制の支援を行う。

(3) 進路指導

- ・校内で実施している模試や学力テストを活性化し、生徒の知識・技能に加え、思考力や判断力を育成できるよう日々の授業改善を働きかける。
- ・探究活動を活かしつつ、総合型選抜や学校推薦型選抜を希望する生徒に向け、より一層

充実した指導体制を構築する。

- ・各種大学入学者選抜において増加することが予想される外部検定利用に向けて、英語外部検定試験の校内全員受検を定着させる。
- ・進路への意識を高めるため、講演会やガイダンスの他、上級学校の模擬授業や現役大学生との交流、本校卒業生との交流など、様々な形態の指導を行う。

(4) 生活指導

- ・自主・自律の精神を育てるため、自己管理能力の向上、社会の規範意識の育成、マナーの育成について、保護者とも連携し、指導の推進を図る。
- ・校則や授業規範の遵守に向けて、全職員による指導を推進する。
- ・今後の社会を支え活躍する生徒を育てるために、可能な限り地域と連携した活動の中で、自主性や協調性、社会貢献の意識を育てる。

(5) 健康・安全

- ・生命を尊重し、自他を大切にす心・態度を育てる教育を行う。
- ・日常の生活の様々な場面において、環境教育・健康教育を行う。感染症対策の取り組みも継続する。
- ・いじめや体罰、友人関係のトラブル等による生徒の精神面での健康課題を早期発見し、対応できるように、スクールカウンセラーも含め組織体制を充実させる。
- ・交通安全をはじめ、学校事故を防ぐ安全教育および対策を行う。
- ・防災訓練等を通して、防災に対する意識を向上させ、地域でも貢献できる力を養う。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員の人数：7名

(2) 協議委員へのアンケート結果

「学校運営連絡協議会で様々な学校の現状・課題について協議することにより『学校がよくなった』と考えるか」という質問に対し、「そう思う」「多少そう思う」という回答が85.7%だった。

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
3	3					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 参加実績

職員会議0回、企画調整会議0回

(2) 成果

参加実績がないため、特になし

8 その他

- ・学校公開の機会を増やすとともに、より伝わりやすい広報活動について検討をする必要がある。